

令和4年度 事業報告

社会福祉法人北海道拓明興社

令和2年から続くコロナ禍の影響の中、外出や活動の制限の幅を少しずつ広げていきました。

接触機会の減少によるコミュニケーションの質の低下を向上させるため、新たな行事への取り組みや、職員の資質及び支援技術の向上、感染症対策や虐待防止の研修機会を設けています。

施設老朽化及び利用者ニーズによる増改築に向け、地域全体のニーズ把握とこれからの福祉への実現可能なビジョン捻出へ計画を進行していきました。

【施設サービス】

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから3年となりました。マスク・消毒などの感染対策が当たり前となり、施設でも多くの時間を割いて対策を講じておりましたが、年末に集団感染となり、ご家族ならびに各関係者の方へ大変ご迷惑をお掛けいたしました。幸いにも重症者が出ずサービスを再開させていただくことができました。

緩和の方向へ向かう中、外食する機会や集団で楽しむレクなどを行い、利用者さん向けの初ワークショップを開催し、奈井江の稲を使った正月飾りを作製しました。ワークショップを通じ、奈井江町を深く知ること、地域とのつながりの機会を増やしていくことができたのではないかと思います。

【生産活動】

生産活動では、自主製作品の箒製作、ごみ袋折り・袋詰め、割り箸袋入れ、馬具の縫製、洗車ブラシ組み立てなど、例年同様の生産活動を行いました。

委託を受けて行っている作業が多く、新型コロナの影響もあり売上は減少となりました。利用者さんの介護度が増加しており、生産活動への参加者も減少傾向となっています。